かみかわ有機農業ネットワークだより【第11号】

事務局　上川総合振興局産業振興部農務課
上川農業改良普及センター
上川農業試験場

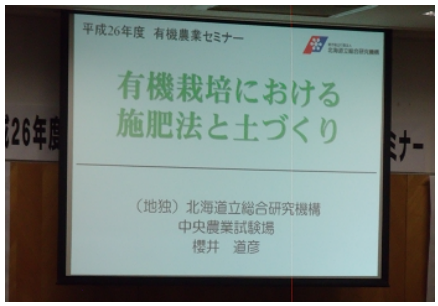
発　行　平成27年2月

「平成２６年度かみかわ有機農業ネットワーク会議」「有機農業セミナー」　を開催しました

かみかわ有機農業ネットワークでは、上川管内における有機農業者のネットワーク構築と各種生産技術の情報共有を図るため、表記会議及びセミナーを開催しました。

当日は、ネットワーク会員のほか、上川管内の有機農業生産者、上川農業試験場、上川農業改良普及センターなど 35 名の参加がありました。

はじめに、かみかわ有機農業ネットワークに係る平成 26 年活動実績及び平成 27 年活動計画について事務局から説明しました。



<H26 活動実績>

・「ネットワークだより」の発行（第 8 号～第 10 号）

・現地検討会の開催（H26.7.8）

<H27 活動計画>

・現地検討会を上川管内で開催（H27.7 下旬～8 下旬頃）

・各種セミナーの開催を検討

有機農業セミナーでは、中央農業試験場/櫻井研究主任から「有機栽培における施肥法と土づくり」について、花・野菜技術センター　/福川　主査からは「道総研におけるたまねぎ有機栽培用育苗培土開発の取り組みと今後の課題」について、また、北海道有機玉葱育苗培土を考える会　/中村　会長からは「有機玉ねぎ栽培事例調査」についてお話しをいただきました。

＜講演内容抜粋＞

・北海道の有機農産物ではかぼちゃ、ばれいしょ、たまねぎの作付けが上位。その中でも格付数量が1番高いのはたまねぎ。

・有機玉葱の効果的な施肥法は、有機質資材を秋施用 10、春施用 5 の割合がベスト。

・たまねぎのハエ類対策は定植は遅くとも5月上旬までに終え、未熟有機物の定植前の施肥は避けること。

・ネギアザミウマ・白斑葉枯病対策には、極早生品種（北はやて、早次郎など）の導入や早期移植が有効。

・有機ばれいしょの疫病対策としては、疫病抵抗性品種「さやあかね」の利用が有効。

・有機栽培畑として望ましい土壌にするための緑肥を活用した土づくりで有効な方法は、たい肥を施用することで一層に地力増進が図られる。

・マメ科緑肥の後には、吸肥力の強い作物（かぼちゃ、スイートコーンなど）を栽培し、窒素負荷の低減を図る。

・緑肥の導入にあたっては、後作物との適合性に注意する。

・地力が向上したら、後作緑肥（えん麦類）の無肥料栽培及びたい肥の散布（3t/10a 程度まで。）等

また今回、初の取り組みとして、ネットワーク会員の情報交換や交流のフリートークタイム「有機カフェ」を実施しました。有機にこだわったお茶やお菓子を囲んで、リラックスした雰囲気の中、名刺交換・情報交換が行われました。

【会場の様子】

【中央農業試験場/櫻井研究主任の説明】

【花・野菜技術センター/福川主査の説明】

【北海道有機玉葱育苗培土を考える会/中村会長の説明】

【有機カフェの様子】